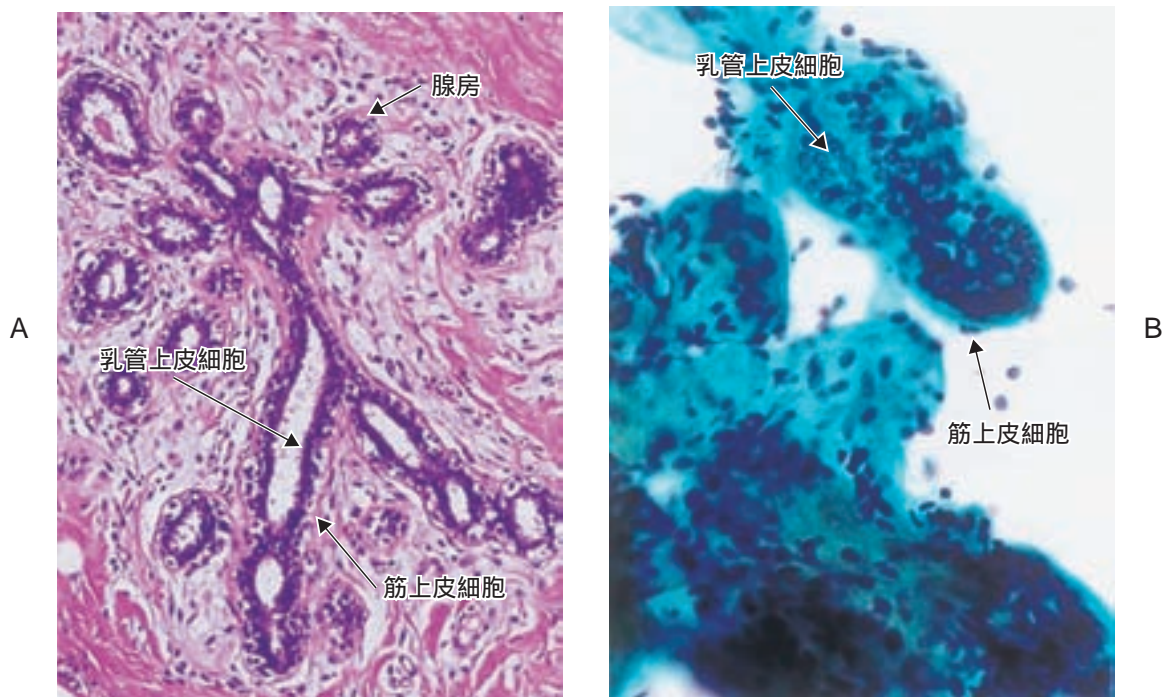


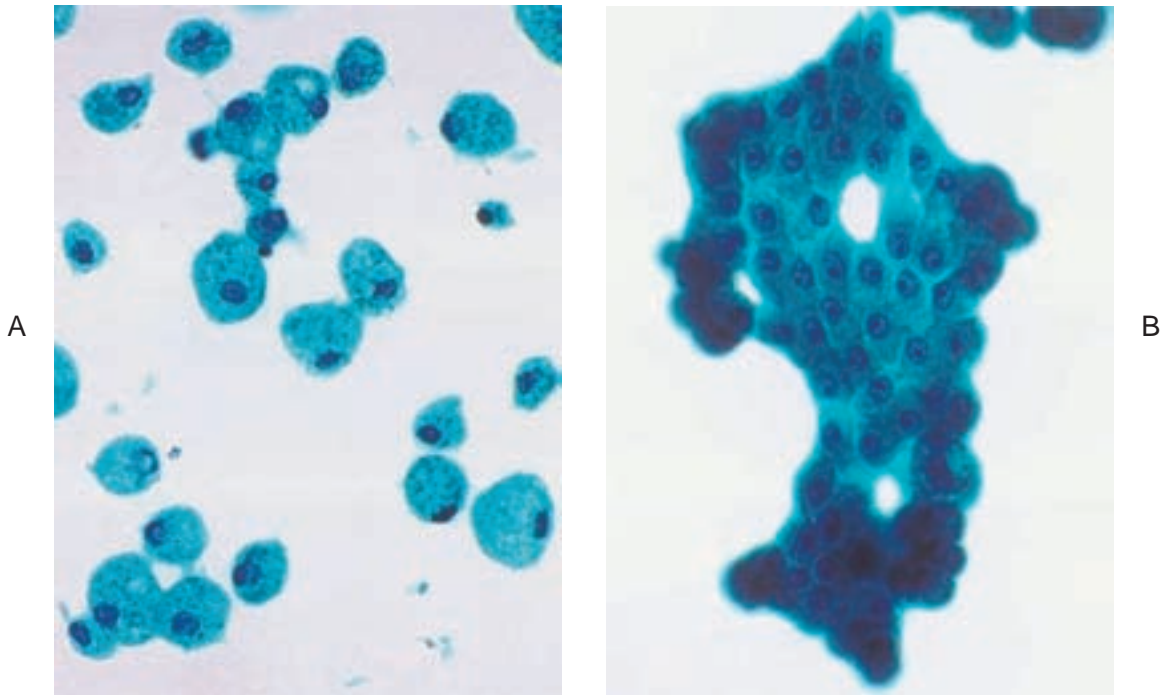
正常乳腺の構造

乳腺は腺実質と間質から成り立ち、腺実質は乳管開口部の主乳管より樹枝状に分枝を繰り返して、乳腺葉を形成する。また乳腺葉は末梢の小葉内で閉鎖した管腔（腺房）で終わる。



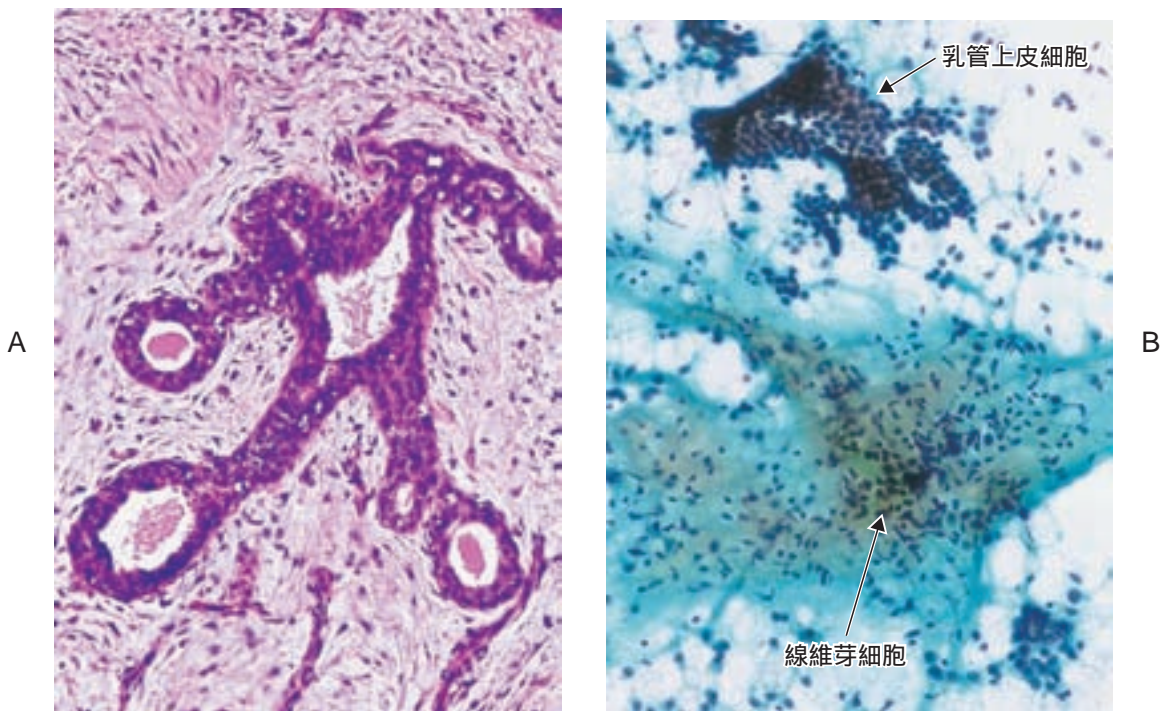
正常小葉組織 (写真A) と腺房の細胞像 (写真B)【写真AはHE染色, x10。写真BはPap.染色, x40】

小葉内末梢乳管周囲に複数の腺房が見られ、構成する上皮細胞は管腔側の乳管上皮と間質側の筋上皮に分けられる (写真A)。また、細胞像における腺房にも同様な所見が見られる (写真B)。



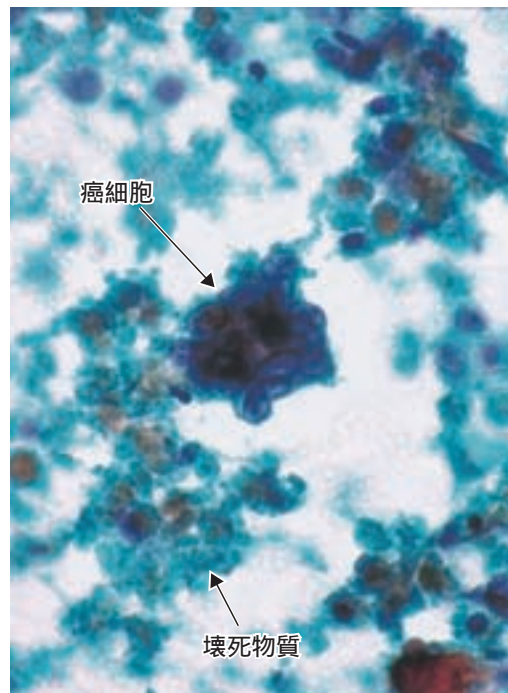
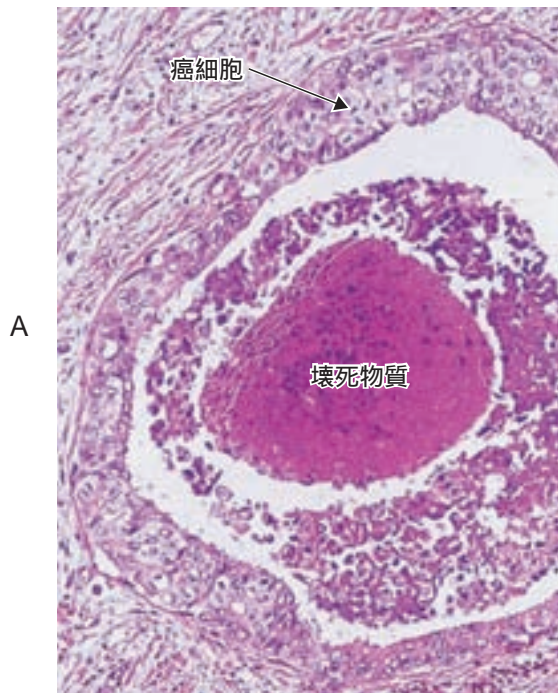
泡沫細胞（写真A）とアポクリン化生細胞（写真B）の細胞像【写真A, BともPap.染色, ×40】

泡沫細胞は細胞質が泡状を呈する孤立細胞で、N/C比は低く、核は偏在する（写真A）。アポクリン化生細胞は豊富な細胞質を持ち、細胞質内には黄褐色の顆粒が認められる（写真B）。



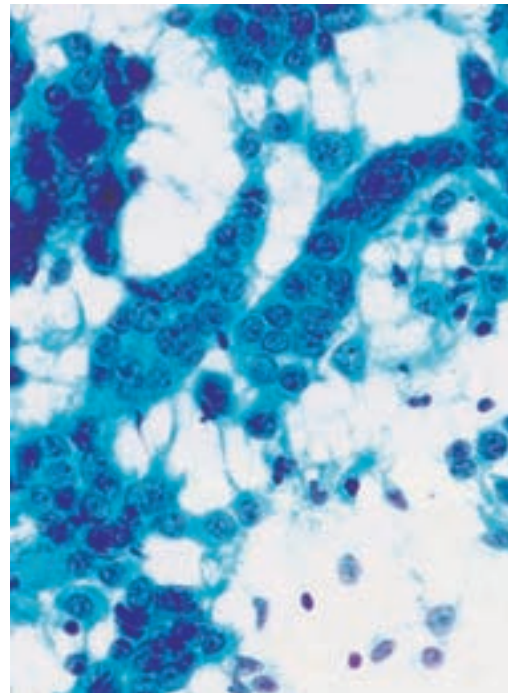
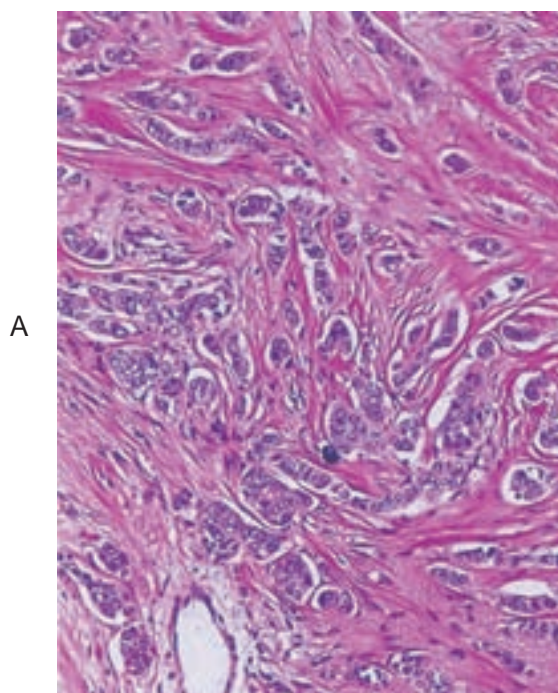
線維腺腫の組織像（写真A）と細胞像（写真B）【写真AはHE染色, ×10。写真BはPap.染色, ×20】

線維腺腫は間質結合織と上皮の双方の成分が増殖する腫瘍である（写真A）。その細胞像では、乳管上皮の細胞集塊周囲に紡錘形核の線維芽細胞が多数認められる（写真B）。



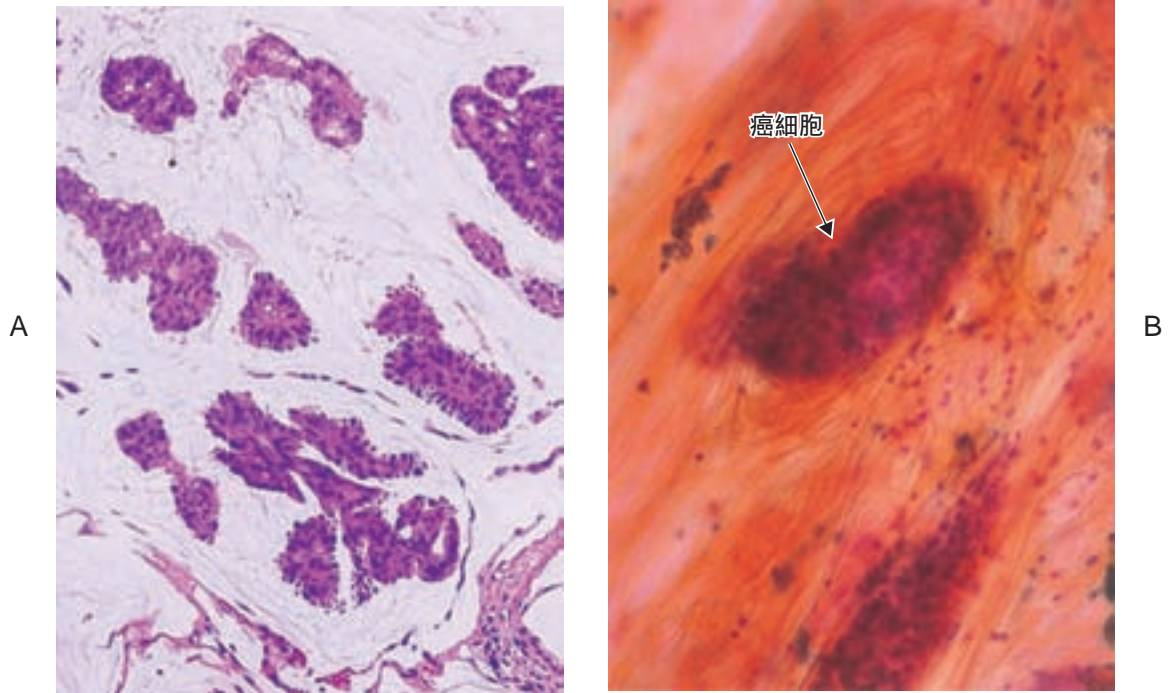
面疱癌の組織像 (写真A) と細胞像 (写真B)【写真AはHE染色, × 20。写真BはPap.染色, × 40】

面疱癌は癌の増殖巣の中心部に壊死を認めるもので (写真A), 細胞像では多量の壊死物質を伴い, 濃染核を有し, 結合性の強い (集団を形成) 腫瘍細胞が認められる (写真B)。



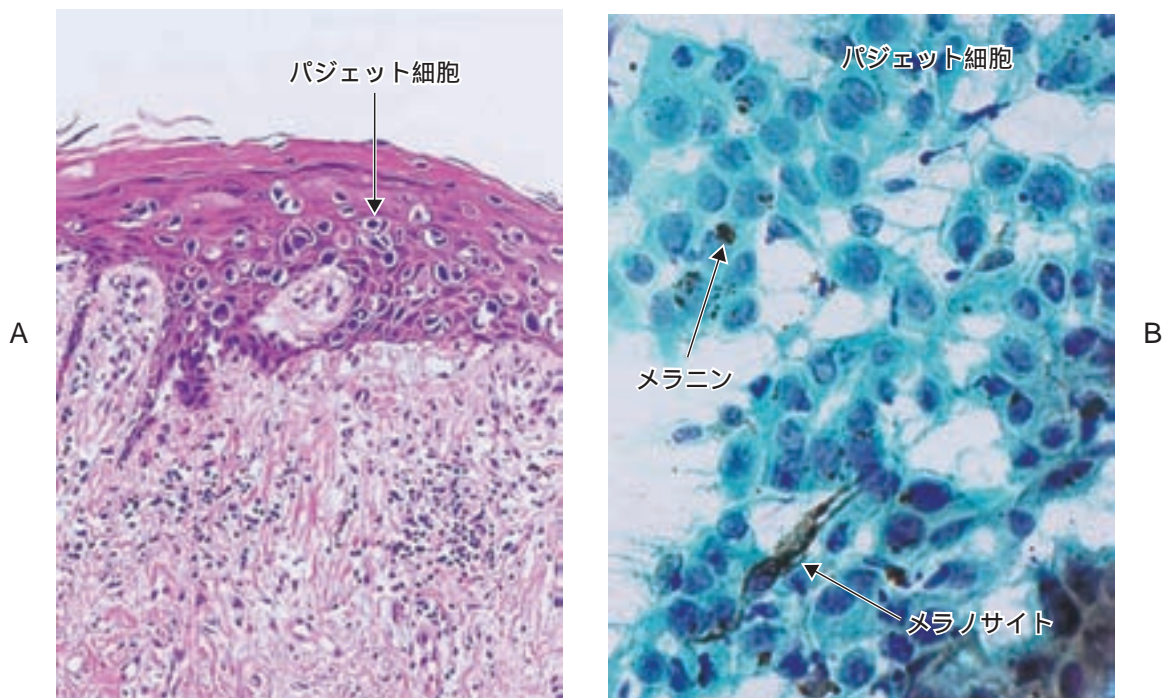
硬癌の組織像 (写真A) と細胞像 (写真B)【写真AはHE染色, × 20。写真BはPap.染色, × 40】

硬癌は癌巣周囲の間質結合織の増殖を認める乳癌で (写真A), 乳癌では最も多い組織型である。細胞像では腫瘍細胞集塊の辺縁部に凹凸のない鑄型状の細胞集塊が認められる (写真B)。



粘液癌の組織像（写真A）と細胞像（写真B）【写真AはHE染色，×20。写真BはPap染色，×20】

粘液産生性を特徴とする乳癌であり，癌巣周囲には多量の粘液が認められる（写真A）。細胞像においてもマリモ状腫瘍細胞集塊の周囲には，橙黄色～赤紫色の粘液が観察される（写真B）。



パジェット病の組織像（写真A）と細胞像（写真B）【写真AはHE染色，×20。写真BはPap染色，×40】

乳頭・乳輪の表皮内浸潤を特徴とする癌で，表皮内には明るい細胞質を持つパジェット細胞が見られる（写真A）。また，細胞標本のパジェット細胞にはメラニン顆粒が観察される（写真B）。